

楽しい行事が盛りだくさん!



【2019年3月から8月に行われた行事】

- ♪春のおさらい会 3月21日
- ♪講習会
- ♪春のミュージックキャンプ 3月30～31日
- ♪楽しくアンサンブル 7月21日
- ♪亀井由紀子特別公開レッスン 8月6日
- ♪夏季合宿 8月8～11日
- ♪ウフ、レ・テタール、ソルフェージュ&ABC
3月10日、4月21日、6月2日、7月28日
- ♪コンサート
- ♪春のコンサート 5月12日
- ♪ソルフェージュスクール演奏会 6月30日

ソルフェージュスクール新聞

春夏号

2019年10月9日発行
編集人 吉村隆子
豊島区目白 4-23-10
(Tel)03-3953-8517

公益財団法人
ソルフェージュスクール



春のコンサート

2019年5月12日(日)

さわやかな風が吹く5月12日に春のコンサートが開催されました。

今回のテーマは「シューベルトの音楽が名づけてくださいました。シュューベルトの音楽を愛好する人々が集まる会との意味。1人の演奏家のさまざま

まな楽曲を聴くことができる…なんて贅沢なのでしょう。連弾、ホルンとピアノと歌、室内楽。シューベルトの感性豊かな音楽が、この小さく居心地の良いスクールのホールで奏でられることにワクワクし、当日を迎えました。(演奏すること

を考えますとガクガクですが…) シューベルトの音楽はほとんどのみなさんが音楽の授業で聴いていらつしやると思います。とにかく歌曲を沢山書いた作曲家ですから、「魔王」「アヴェ・マリア」「セレナーデ」など、なんとなく覚えているメロディーがありますね。

今回のオーブニングは有名な「軍隊行進曲」を含む3曲の連弾。ピアノの打楽器的な要素、オーケストラを思わせるハーモニー、身体が自然に動き出すような明るい演奏でした。

2曲目は、歌は歌でもホルンとピアノとのトリオ。先ほど挙げた歌曲とは一味違うものです。水野紀子先生のきらめく水面のようなピアノ、水野信行先生の柔らかく温かい光のようなホルン。私の足がガクガク震えたことは言うまでもありません。最高の緊張の中で、なんて幸せなだろうと、終わって欲しいような終わって欲しいような気持ちでした。

最後は「まず」全楽章。あの有名なメロディーに辿り着くまでの音楽の行程、情景を表すそれぞれの楽器のライン。ま

さに春のコンサートにぴったりでした。春のコンサートは、お客様に気軽に楽しんでいただく音楽会です。演奏する私たちも、リハーサルを他の先生方に聴いていただいで一緒に作り上げています。

音楽はアンサンブル。心を通わせ、同じ方向を向かないと良いものが生まれません。個人が尊重されがちな今の時代に、他の人とアンサンブルする、1つの音楽を作り上げる体験がこのスクールにあります。

どうぞミュージックキャンプや楽アンに参加してください。楽しいですよ。

そして、来年の春のコンサートでどんなアンサンブルが登場するかどうかお楽しみに！
江原陽子(講師)

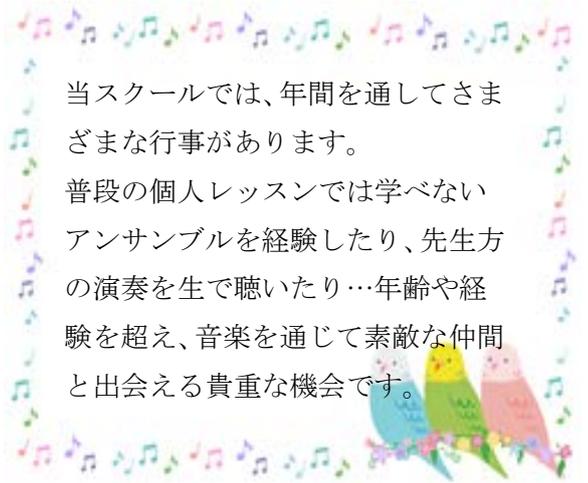
～プログラム～

- ♯3つの軍隊行進曲 D 733 Op.51
第1番 Op.51-1 第2番 Op.51-2 第3番 Op.51-3
♪込山今日子 Pf、津布楽杏里 Pf
- ♯流れの上で D 943
♪江原陽子 Sop、水野信行 Hr (ゲスト)、水野紀子 Pf
- ♯五重奏曲「まず」 A-dur D 667
I Allegro vivace II Andante III Presto
IV Andantino 主題と変奏 V Allegro giusto
♪水野紀子 Pf、妹尾美紀子 Vn、林徹也 Va
吉村隆子 Vc、橋爪裕貴 Cb

3月30日(土)、31日(日)の二日間、「春のミュージックキャンプ」が開かれました。

参加者はリコーダー1、ヴァイオリン3(内1名はピアノも)、チェロ1、ピアノ4の計8名。三つのグループ(A・B・C)に分かれ、音楽に囲まれながらアンサンブルを楽しみました。Aグループはヴァイオリン、チェロ、ピアノでモーツァルトのピアノトリオ(K・542)に挑戦しました。Bグループはリコーダー、ヴァイオリン、ピアノでクヴァンツのトリオソナタハ長

春のミュージックキャンプ
2019年3月30〜31日(土・日)



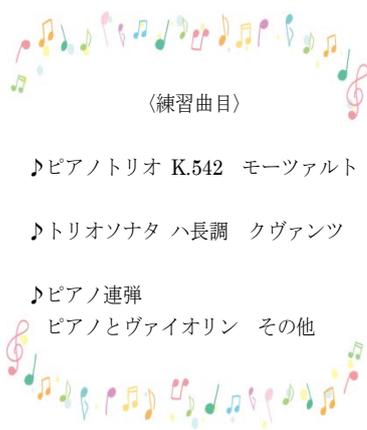
当スクールでは、年間を通してさまざまな行事があります。普段の個人レッスンでは学べないアンサンブルを経験したり、先生方の演奏を生で聴いたり…年齢や経験を超え、音楽を通じて素敵な仲間と出会える貴重な機会です。

調、Cグループはピアノ連弾とヴァイオリンとピアノのアンサンブルを楽しみました。今回のキャンプは三名の講師がそれぞれ特定のグループを担当するのではなく、三つのグループすべてに関わる方式で行われました。そのため多くの視点でアンサンブルに対するアプローチが行われたように思います。

私は初めての参加でしたが、例年に比べると参加者が少ないとのことでした。しかし、参加者の意気込み、意欲は並々ならぬものであったように思います。驚かされることは数多くありました。それは多くの参加者が初対面であり、また年齢差があるにも関わらず音楽を通して意気投合していることです。音楽を作り上げることに對してとても真剣であり、参加者それぞれが音楽に真面目から向き合っている姿が印象的でした。テーマの受け継ぎ方やフレーズの歌い方、音の処理の仕方などを講師も含めて意見を出し合いながら考えました。また、スマートフォンのような文明の利器！を活用し、自ら

練習曲目

- ♪ピアノトリオ K.542 モーツァルト
- ♪トリオソナタ ハ長調 クヴァンツ
- ♪ピアノ連弾
ピアノとヴァイオリン その他



の演奏を振り返って音の出し方、聞こえ方について工夫する姿も見られました。Cグループの連弾は小学生2名でしたが、積極的に音楽と向き合い、演奏の仕方について話し合っていました。姉妹のように仲良く相談しながら音楽を作り上げている姿は見ていて微笑ましいものでした。(音楽を研究する！を合言葉として、楽譜に多くの注意点を書き込んでいました！)

最終日の発表会は各グループが緊張感のある演奏を披露しました。二日間におたる練習の成果が明らかに見える演奏でした。初めて合わせた時と比べて格段に息が合い、音楽の方向性が統一されているように感じられました。キャンプ中の昼食や発表会後のお茶の会では音楽談義だけではない親交が育まれ、これもキャンプの大きな魅力の一つであると確信しました。人間味溢れる参加者が集った春のミュージックキャンプとなりました。

津布楽杏里(講師)

◇ミュージックキャンプに参加して◇

私は大人になってからチェロをはじめました。伝統あるソルフェージュスクールとご縁があり、一昨年「大人のための基礎音楽入門」にはじめて参加しました。今回はそれに続いてのイベント参加です。

ピアノトリオは生まれてはじめての経験でした。しかも、モーツァルト！室内楽にほとんど馴染みのない私でしたが、アンサンブル相手のお二人の人間性も素晴らしい、楽しく過ごさせていただきました。

- ・ 拍の感じ方を共有する
 - ・ 小節をきちんと意識して音を出す
 - ・ フレーズを意識して相手の音を聴く
 - ・ 自分が出せる一番きれいな音を出す
- ピアノ、ヴァイオリン、チェロの各楽器の先生が順番にアンサンブルを指導してくださり、経験がない楽器についての先生からのアドヴァイスも新鮮な経験でした。本番での出来は練習のように上手くはゆきませんでした。自分なりに努力した結果ですので良い経験になりました。何よりも、ピアノトリオが好きになりました。また、ぜひソルフェージュスクールのイベントに参加させていただきたいと考えています。

鳥巢修(受講生)

楽しくアンサンブル

2019年7月21日(日)

『アンサンブル』とは調和や統一を示すフランス語で、音楽では2人以上が同時に演奏することを意味します。1人ではなく一緒に演奏する人がいると、なんだかそれだけで楽しいですね。

アンサンブルをする上でいちばん大事なことは、1人だけ先に行ったり、途中で止まったりしないで、一緒にはじめて一緒に終わることです。1人1人が自分で拍を感じながら周りのみんなと一緒に進んでいらないといけないのです。そのためにはまず自分の音を、そしてまわりの音をよく聴くことが大切です。

7月21日(日)「楽しくアンサンブル」が行われました。メンバーはすべて大人で、ヴァイオリン5名、チェロ1名、ピアノ1名と少し淋しかったのですが、編成の違う2曲(モーツァルトのディベルティメントとベッカーのソナタ)を皆さんが午前と午後でどちらも体験できるように、また、ヴァイオリンのパートはどちらも両方弾いていただけるようにしました。いざ弾くととなるとどうしても自分のパートばかりに気を取られてしまいがちですが、別のパートを実際に弾くことによって、自分がここを弾いている時、相手は



はじめて合わせる時はドキドキです!

こんなことをしているんだ、とか、あのメロディのあとに自分が出ればよいんだとか、かけあいのしくみが聞こえてきて、新たな気づきが生まれます。はじめはおっかなびっくりはじまったアンサンブルでしたが、合わせるたびに少しずつ心地よさが増していくのがわかる、そんな貴重な時を持つことが出来ました。毎回メンバーが違う、聞こえてくる音も少しずつ変わってくるのがわかる、だから一緒に心地よさを共有できるアンサンブルは楽しいのです。

加藤恵理(講師)

◇楽しくアンサンブル◇

夏休みのはじまるころ、7月21日(日)の『楽しくアンサンブル』。私はバイオリンで参加しました。午前の部ではモーツァルトのディベルティメント(ト長調)を第1バイオリン、第2バイオリンと、チェロ(吉村隆子先生)で合奏しました。モーツァルトの曲想を捉えるために吉村先生が歌ったり、身振り手振りを駆使して教えてくださり、「なるほど」と引き込まれていきました。アンサンブルでは、楽器同士の音を聞き合うことの大切さを学びました。最初は自分のパートを間違えずに弾くことで精いっぱいでしたが、繰り返し弾いているうちに、曲全体を支えるチェロの音を聴きながら、また隣のバイオリンを意識しながら弾くことがとても楽しく感じられるようになってきました。

昼食を楽しくいただいて(ただし、ランチが各自持ち込みであるという指示文を読み落として、食卓についてから私だけランチがない!すぐに、コンビニに走りました)、午後は17世紀ドイツの作曲家ベッカーのソナタでした。第1バイオリン、第2バイオリンとピアノ(加藤恵理先生)でした。先生方のご指導のもと、17世紀に思いを馳せながら弾いていると、シェイクスピアの劇中音楽を思わせる素朴で優雅な響きがかもし出され、感激しました。第1と

第2バイオリンを入れ替えて弾いてみたい、吉村先生、妹尾美紀子先生からもいろいろお話をうかがい、最後まで楽しいアンサンブルの会でした。

私は子供のときに独奏で弾くことを主に教わりましたが、退職後に(ほぼ半世紀ぶり!)アンサンブルに参加させていただき、音楽を複数の楽器で創り出す面白さを経験することができました。先生方の熱いご指導に心から感謝いたします。

『楽しくアンサンブル』は、リラックスした雰囲気なかで、先生方、他の生徒さんたちと親しくお話しながら、音楽を楽しむことのできるクラスです。貴重なチャンスですから、多くの方が参加してくださいと思います。

小野祥子(スクール生徒)



アンサンブルを楽しむ素敵な時間が流れます

亀井由紀子特別公開レッスン

2019年8月6日(火)

◇音楽を楽しむ心を 呼び覚ますレッスン◇

8月猛暑日、弦楽四重奏のメンバーで亀井先生の公開レッスンをうけました。曲目はハイドンの弦楽四重奏曲第78番「日の出」の1、4楽章です。カルテットのメンバーは、軽井沢にあるお寺でのコンサートを機に6年前に結成し、毎夏演奏を続けている仲間です。6年続けていて、お互い分かってくることもありませんが、行き詰まることもあります。今回のハイドンは、まさに行き詰まっていた。なんとなく形になった気はするけれど、何か違う…。レッスンを受ける前に、合っていないなかった音程を調べて、バラバラだった音の処理の仕方を相談したり、基礎的なことを直していきましたが、まだなんだか混沌としている…。そんなさまよっている状態で受けたレッスンでした。

亀井先生は私たちの出す音を漏らさずに拾い上げて、意味を持たせてくれました。一つの音の意味がクリアになるだけで全体が全く変わることを体感しました。ただ音程と時間とバランスが正確に合っていないでも魅力的な音楽にはなりません。その音

が今どこに向かっているのかを知り、音楽に息を吹きかけるのは自分たちの意志なのだ、と気づかせてくれた、ハツとするレッスンでした。

それから、正確な時間とバランスも幅があり、その中で美しいところを探して行くのが練習なんだな、と思いました。

レッスン後に亀井先生が「最初、全然楽しそうに弾いてなかったわねえ。」と仰っていました。まさに、楽しむ心がどこかに行ってしまっていた気がします。亀井先生が音楽の楽しさを呼び覚ましてくださいました。

なかなか自分たちのことは客観的に聞けません。「レッスンを受けて良かった！」と仲間と分かち合えたのも喜びでした。今回のレッスンで得た感覚を大事にして、続けて行きたいと思います。

長山千鶴子(室内楽クラス元生徒)



～曲目～

- 弦楽四重奏曲 Op.76-4 変ロ長調『日の出』1、4楽章 ハイドン
- Sonata Nr.3 Fuga バッハ
- Sonata K.376 全楽章 モーツァルト

夏季合宿

2019年8月8日～11日(木～日)

◇はじめての合宿に参加して◇

僕は、はじめて夏の合宿に参加したが、最初は行く気は無かった。しかし、吉村先生が、何度も歌で参加して欲しいといい、少しずつ興味を持ち始めた。そして、『絶対に楽しいから』ということに参加することを決めた。

合宿は、山梨県の甲斐大泉という場所で、4日間の日程で行われた。とても暑かった。この合宿を通して2つの事を感じた。1つ目は、皆がとてもアットホームな感じで、とてもフレンドリーという事だ。皆が優しく、とても気持ちの良い空間で音楽を楽しめた。2つ目は、音楽三昧という点だ。朝起きて、夜眠るまで音楽に浸れる非日常的な体験ができた。また、歌も、専門的な指導でとても興味深い体験ができた。

この合宿を通して、歌を歌うことが前よりも楽しくなった。今回、合宿に参加して良かったと思う。

HARU (スクール生徒 高一)

～練習曲目～

- ♪ベートーベン 弦楽四重奏 No.14 Op.131 1～4楽章
- ♪ベートーベン ピアノ協奏曲 No.5 Op.73 2楽章
- ♪ドフナニー ピアノ五重奏 No.1 Op.1 1楽章
- ♪ドボルザーク ピアノ五重奏 No.2 Op.81 1楽章
- ♪ヘンデル Ombra Mai Fu, Lascia Ch'io Pianga
- ♪シューマン 連弾 Abendlied(Evening Song)
- ♪ビーブル 合唱 Ave Maria



全員で合唱のレッスン中♪

日々の成果を発表！おさらい会&演奏会



生徒たちの日々の練習の成果を発表する機会が、「おさらい会」と年に一度の「演奏会」です。「おさらい会」は年に2回行われ、ピアノの人はグランドピアノを使い、器楽の人は先生に伴奏をつけてもらい、勉強の成果を皆さんの前で発表します。聴く側も生徒の成長を感じ、生徒自身も人前で演奏するという場を通じて自分の成長やこれからの課題を見つける良い機会となります。

毎年6月に行われる「演奏会」は、普段のレッスンではなかなか会えないお友達と一緒にアンサンブルをする楽しさを感じながら、生徒全員大きな舞台でがんばる、年に一度のイベントです。最後の合唱はドイツ語でシュトラウスの Morgen! (あした) とブラームスの Von ewiger Liebe (永遠の愛について) を歌い、感動のラストを飾りました。

おさらい会

2019年3月21日(木・祝)

3月21日(木・祝)春のおさらい会が開かれました。出演はピアノ9名、ヴァイオリン4名、フルート1名でした。

リハーサルでは、生徒さん一人一人が自分の考えを持っていて、ここが気になりますとか、今はもう弾かなくてよいですとか、限られた時間を自分が納得のいくように使う、という姿がありました。楽器をはじめてまだ間もない小さな生徒さんでもそうであったことに驚きました。

そのリハーサルを経た本番は、新しい集中が加わり充実した演奏になりました。客席の方々もたいへん熱心に聴いてくださり、温かい雰囲気では無事終了しました。出演者のみなさんをサポートしてくださったご家族のみなさまにも深く感謝いたします。

込山今日子(講師)

◇はじめてのおさらい会◇

昨年よりソルフェージュスクールでの学びをはじめた娘ですが、春のおさらい会にはじめて出させていただくこととなり

大喜び。まだ凍てつく寒さのなかから、春分の日の本番を目指しての特訓がはじまりました。

練習を重ねていく過程で、皆様にお聴きいただけるということあつてか徐々に響きを意識するようになり、自ら試行錯誤するなかから、これまで幾度もご注意いただきながらも不安定でしたボーイングが、見る見るうちに安定していきましただのには、目を見開かされました。また、ご伴奏をいただく津布楽先生との音合わせの際、とりわけ緩徐フレーズの後のテーマに戻すタイミングで何度も失敗しつつも、息遣いをお伝えすることでちゃんとお合わせたいただけることを体験し、これまでになく瞳を輝かせておりました。

小さいながらも、視座の変化・自己の客観視の重要性や、人様と合わせることの難しさと息が合った時のひとしおの愉しみ・悦びを、音楽を通じて無理なく学んでいっている姿を見て、このスクールに娘をお預けできたことに心から感謝をいたしました。

ソルフェージュスクールの枠組みには、主体的な学びを自然に引き出す優しい力学が、随所に散り嵌められています。こうした学びが、これから人生という長く複雑な楽曲を演奏していくに際し、その主人公として輝くための明確な道標となることは疑うべくもありません。長じて

後、社会という通奏低音のなかで、確りと豊かなハーモニーを奏でていくために。ソルフェージュスクールでの学びはまだはじまったばかりですが、成熟した人格を形成していくための大切なきざしは一段一段を着実に自分の足で登っていくように、これからも先生方のお導きにおゆだねしながら、娘の成長を見守っていきたく思います。

安坂崇(スクール生徒保護者)

～プログラム～

- | | | | |
|----------------|------------------------|----------|----------------|
| ・グローパー | ほとどけいとけいのかね | ・バッハ | プーレ |
| ・ギロック | さあ、ワルツを踊ろう | ・ベートーヴェン | ソナタ Op.49-2 |
| ・キャサリン・ロリン | ジャングル・フィーバー | ・ネック | クシコスポスト |
| ・ドイツ民謡
ペイリー | クリスマスうた
ロング ロング アゴー | ・ドビュッシー | ゴリウォーグのケーキウォーク |
| ・バッハ | メヌエット 第1番 | ・ベートーヴェン | ピアノソナタ悲愴より 2楽章 |
| ・ペイリー
鈴木鎮一 | ロング ロング アゴー
アレグロ | ・F.クーラウ | 序奏とアレグロ Op.98 |
| | | ・F.リスト | 愛の夢 |
| | | ・ショパン | エチュード Op.10-5 |

ソルフェージュスクール演奏会

2019年6月30日(日)

◆仲間と一緒に作り上げる音楽◆

今回の演奏会は、私にとってとても有意義な経験となりました。一番の理由は連弾で下のパートを担当したことです。今まで下のパートを弾くことはあまり経験がなく、練習は試行錯誤の繰り返しでした。はじめ楽譜をいただいた時、同じ音の繰り返しだったりメロディーの入り方がまったく分からない部分もあって途方に暮れたことを覚えています。それでも一楽章は知っている曲だったのでメロディーが想像できたことで救われました。その代わりに四楽章は下のパートから曲を想像して作るのがなかなか難しく、メロディーが少ない分譜読みも大変でした。元から譜読みが苦手だったこともあり、曲らしく聞こえるようになるまで本当に時間がかかってしまいました。しかし譜読みができて2人での合わせ練習を多くするようになると下のパートならではの奥深さや味わい方が分かってきて曲が作られていく過程が楽しく感じられるようになりました。上と下のバラ

スのとり方、主張すべきところと控えるところなどたくさん先生方から教えていただき、毎回のレッスンはとても充実していました。レッスンのたびに曲がどんどんと変わっていく様は弾いていて気持ち良く、音楽の楽しさを感じることができました。そして迎えた本番ではいつもと違う広いホールで2人でのびのびと弾くことができ、終わった後は練習の大変さを思い出して達成感で満たされました。



おさらい会などでは1人で演奏するため練習も孤独な作業が多かったですが、今回は一緒に曲を作り上げる仲間がいて、多くの先生方が関わって下さって、それが練習のモチベーションにもつながりました。普段できない経験ができたこの演奏会は練習から本番まで本当に充実した時間でした。このような機会を下さった先生方と、一緒に演奏してくれた実穂ちゃんに心から感謝いたします。

臼井友香(スクール生徒)

◆ゆったり見守りたい子供たちの成長◆

今年5歳の双子3回目のソルフェージュスクール演奏会でした。

昨年一昨年は舞台にあがる前に大泣きしてしまったり、本番直前で2人とも膝をかいたことを昨日のことのように思い出します。今年は割と安心して見ることができ、子どもたちの歌声に心が癒されました。

音符やリズムを譜面で読むことは、大人でも難しいのだから小さい子供には無理なように思いますが、こちらの教室に通わせていただき、子どもたちの様子を観察していると、子どもたちの能力の素晴らしさに気づかされます。

うちは双子のため、2人で大騒ぎをしてまったく授業にならず、担当の吉村先生にはたいへんなご迷惑をおかけすることもたびたびありました(今でもありません)。こりゃ才能がなさそう!と親としては半分諦めモードではありましたが、双子は徐々にまるちゃん、しろちゃん、くろちゃん、はねちゃんの音符の長さが分かるようになりました。その後はじめて「これがド、これがレです」と音階を教わったときには、並んでいる音符を全部「くろちゃん!」と言いました。確かに

くろちゃんが並んでいるので(確かにそうだな、これはさすがに理解するのは難しいだろう)と思っていたら、何回も何回も繰り返しているうちに音階が読めるようになったのは本当に驚きました。吉村先生が発表会のごあいさつでおっしゃっていたように、長い目で見守るということ、まさに実感しています。この先どうやって花開いていくのか想像もできませんが、いつも急いで焦っている毎日の中で、こちらのお教室でゆったり見守る時間というものをしばらくは満喫したいと思っています。

竹中歩(スクール生徒保護者)



みんなで楽しくリズムック!



◇孫の演奏会◇

孫は、3歳からソルフェージュスクールでリトミックをはじめましたが、父親の転勤で年長から小学校2年生までの3年間を福岡で過ごしました。そこで、バツハが大好きな男の先生にピアノを習いはじめました。当スクールでリズムなど基礎をしっかりとご指導いただいたことが身につけていたようで、スムーズにピアノのレッスンに入っていたようでした。

3年生の時に東京に戻り、本人の強い希望もあり再び当スクールでお世話になっております。現在小学校5年生になり、学年が上がることにたいへん忙しい毎日なのですが、「レッスンには絶対行くよ！行かせて！」と言って、1時間かけて通っています。元気いっぱいの子やんちゃなサッカー少年でもあります。慈愛に満ちあふれた先生方は、全てを優しく受け止めて下さり、孫にとって心を全開にできる最高の居心地のよい場であるようです。

今年の演奏会で、孫は、素晴らしい先生方のご指導の賜物で、ピアノの6手連弾、合奏ではリコーダーを、そして、ドイツ語で歌う混声合唱をさせていただきました。普段見られない孫の真剣で緊張した面持ちの中に、楽しそうに歌っている姿に、心から幸せな気持ちにさせてい

ただきました。ピアノという1つの楽器のみならずさまざまな楽器と触れ合い演奏することや津布楽先生の美しいピアノ伴奏で、江原先生の指揮のもと、本格的な合唱を体験させていただけることは、ソルフェージュスクールならではの心から感謝いたします。演奏会は、会場全体が優しさに包まれて、どの演奏も終わるたびに演奏者の最後の人がステージから見えなくなるまで温かい拍手が鳴り止まなかったのが印象的でした。

吉村先生の「音楽は国境も年齢もありません」というお話のように、私も時々、孫とピアノの連弾や歌をうたって楽しんでます。孫が大人になってスクールでのさまざまな経験が生きる大きな力になることを信じています。

小澤陽子(スクール生徒祖母)

◇アンサンブルの耳◇

昨冬より、約13年ぶりにソルフェージュスクールのクラスに参加させていただいています。久々にスクールを訪れた時には、当時まだ小学生だったころの私の記憶とまったく変わらないスクールの建物、そして先生方の雰囲気、懐かしさとともに温かい気持ちになりました。

ソルフェージュスクール演奏会では、室

内楽クラスのカルテットと弦楽合奏に出演させていただきました。林徹也先生にすすめられて選んだメンデルスゾーンのカルテットは、本当に素晴らしい曲で、毎回レッスンで弾くのもとても楽しみにしていました。雰囲気がたくさん変わる曲ではありましたが、親しみやすいメロディーで、観客のみなさまに少しでも曲の素晴らしさが伝わっていればと思います。学生時代は、近代楽曲をやることも多かった私にとって、弦楽合奏では久々にバツハに取り組みました。毎回のレッスンでは初心にかえり、先生のご指導のもとバツハらしい奏法を見つけ出したり、それぞれのパートや和声の動きをしっかりと確認したりすることができ、どんどん「アンサンブルの耳」が育っていつているのを感じることができました。

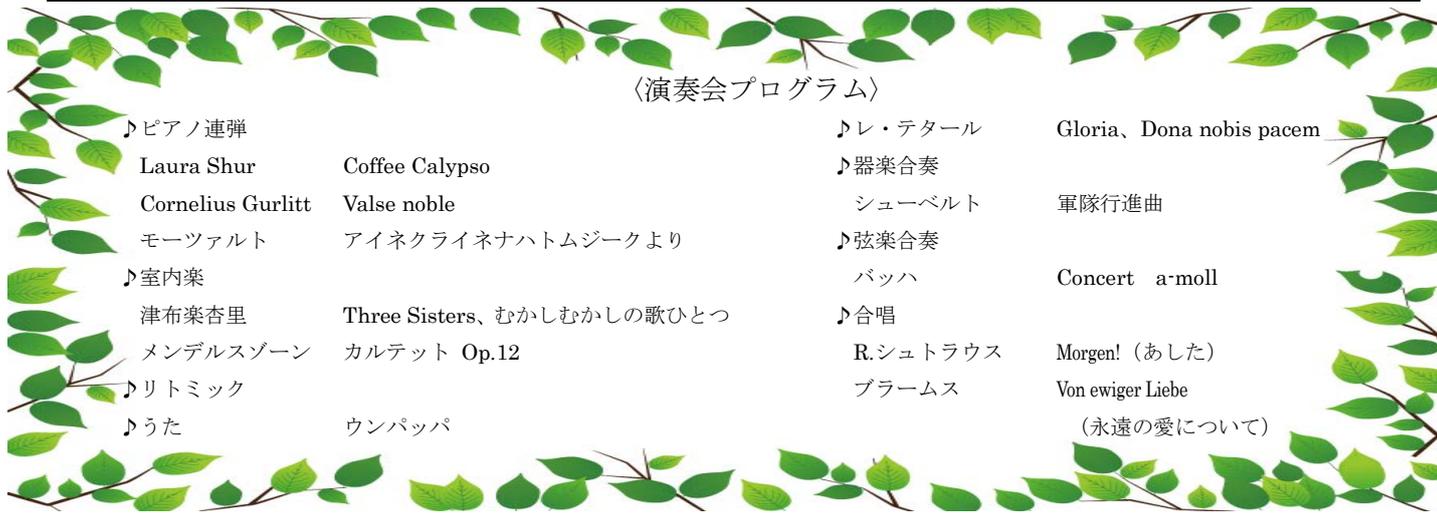
ひたすらバイオリンの練習をしていた小学生時代から、音楽以外のさまざまな勉強や経験も重ねて大人になった今でも、こうしてプロの先生方から大好きな音楽、とくにアンサンブルについて学び、発表することができるのは、ひじょうに貴重なことです。このような素晴らしい機会を与えていただき、感謝しております。

新美麻奈(室内楽クラス)



(演奏会プログラム)

♪ピアノ連弾	♪レ・テタール	Gloria, Dona nobis pacem
Laura Shur	♪器楽合奏	軍隊行進曲
Cornelius Gurllitt	シューベルト	
モーツァルト	♪弦楽合奏	Concert a-moll
♪室内楽	バツハ	
津布楽杏里	♪合唱	Morgen! (あした)
メンデルスゾーン	R.シュトラウス	Von ewiger Liebe
♪リトミック	ブラームス	(永遠の愛について)
♪うた	ウンパッパ	



「行事をより良くするために」 研究会

2019年2月13日 込山今日子(講師)

「行事をより良くするために」と題して講師による研究会が行われました。

ソルフェージュスクールでは一年の中でさまざまな行事が行われています。今回はその中から『楽しくアンサンブル(楽アン)』と『6月の演奏会』を取り上げました。

楽アンは、小学3年生以上(上限なし)が参加でき、その日限りのグループを組み、室内楽のアンサンブルをします。

譜読みをスムーズに進めるには？ 楽器による難しさの違いは？ といった具体的なことから、私たちが音楽をする上で大切にしたいことは？ まで、自由な意見を出し合いました。

音楽の流れ方、色合いなどを、まずはざっくりととらえる。そのためには歌うことが大きな助けになる。正確にドレミが言える必要はなく、むしろラララなどで、音楽の雰囲気を思い切っって表現することが大切。各々がとらえた音楽が反応しあって、大きな流れが生まれることでしょう。

アンサンブルは、コミュニケーションです。お互いの呼吸を感じながら相手に寄り添ったり、こちらから誘いかけたり…。相手の気持ちをキャッチし、今度はこちらの思いを伝える。ドキドキですが、きつと楽しいはず！

6月の演奏会は、2人の連弾から大勢での合奏、合唱まで、すべての曜日の生徒、講師が集う行事です。大勢の中での自分の役割が、全体の中で意味を持つことを体感します。そしてそれは、音楽の中だけでなく、演奏会の準備から本番、片付けまで、全体を見ながら自分にできることをしていくということでもあります。

ソルフェージュスクールの行事が、参加されるお一人お一人にとって、良い時間になりますよう私たちも努力してまいります。
込山今日子(講師)



♪参加者募集中♪

ソルフェージュ&ABC

(対象：小学1～4年生)
英語の教材を使ってソルフェージュを学び、両方を楽しく身につけるクラス♪

ウフ (対象：0歳～5歳)

歌って動いて作って、とにかく楽しい音遊びのクラス♪

シ・テタール

(対象：小学1年生～高校生)
優しく美しいハーモニーを目標に練習している合唱団♪

お待ちしております！！

2018年度 皆勤賞&精勤賞



皆勤賞 4名

精勤賞 8名

みんな頑張りました！！

頑張ったお友達に
プレゼント！

スクールの情報は

こちらも見てください！ ↓↓↓

Facebook

Web



〈編集後記〉

みなさまが寄稿くださった記事を拝読し、我々も音楽の可能性を再認識させていただくことができました。

〈今後の予定〉

- 大人の音楽の時間 11月7日～12月5日毎週木曜
- 楽しくアンサンブル 12月15日(日)
- クリスマスコンサート 12月22日(日)
- 春のおさらい会 3月20日(金・祝)
- 春のミュージックキャンプ 3月28(土)29日(日)